

神奈川

“クジラ”が悠然と、横浜・みなとみらい21 (MM21) 地区の海を泳ぎ回っている一。

といっても本物ではなく、車体にクジラを1頭丸ごとデザインした水陸両用バスのことだ。横浜市が中心となり、昨年夏から「社会実験」を開始した。東京オリンピック直前の2020年3月まで実証運航を重ねた後、速やかに本事業への移行を計画している。

事業者は公募し、東京の河川で水陸両用バスの運航実績がある日の丸サングと、横浜で貸し切りバスを運行するシティアクセスの2社を構成法人とするプロジェクトチームに決めた。市港湾局によると、水陸両用バスは東京、大阪など複数の都市で定期運航されているが、海上での運航は横浜が首都圏初となるという。

社会実験用の水陸両用バスは、約1億円かけて製作した。全長約12メートル、幅約2.5メートル、高さ約3.8メートルで、定員44人。エンジンを2つ搭載し、バスと船の操縦装置を別々に備えている。運航するには大型二種と1級小型船舶の免許が必要で、日の丸サングはバス運転手に船舶免許を取得させたという。

見た目にも工夫を凝らした。市芸術文化振興財団が運営するアーツコミッションを介して、市内のデザイナーに外装のデザインを依頼。側面全体にクジラの胴体、後部に尾びれをそれぞれ青色で描いた。「クジラの背中」と愛称される横浜港大さん橋の周りをクジラバスが“泳ぐ姿”には、笑みがこぼれるだろう。

社会実験は、昨年8月からプレオープン、10月からグランドオープンした。MM21地区の2カ所から毎日2～4便(週末には増便)を運航。陸上の観光名所を巡った後、日本丸メモリアルパーク内のスロープから進水する。運航時間は陸上走行を含めて1時間前後。料金は大人3,500円、小学生以下1,700円。

プレオープン中の営業日は、台風などの天候不順が響いて延べ28日にとどまったが、合計2,515人が利用した。うち60%が市外在住者。「もう一度乗りた



MM21地区の運河を航行中の水陸両用バス

MMの海を クジラバスが泳ぐ

い」と答えた人は70%に上った。料金については「高い」が23%、「少し高い」が45%、「普通」が30%と、不満も聞かれた。

同市は中期4ヵ年計画の目標に「都心臨海部の回遊性向上」を掲げ、横浜港港湾計画でも「レクリエーション等活性化水域」を定め、水上交通や観光船の利用促進をうたっている。その一環として、観光名所と水辺や海をシームレスに結び、非日常的な乗車(乗船)体験が楽しめる水陸両用バスの社会実験を開始した。

水陸両用バスは、渡河や上陸など軍事目的に開発された水陸両用車を観光目的に改造したものだという。欧米や東南アジアでレジャー用に先行導入されていたが、日本で営業運航が始まったのは10年ほど前からと新しい。こういった平和利用が加速し、笑顔の輪が広がることを期待したい。